

議 事 録

平成 27 年 7 月 14 日作成

会 議 名	第 4 回 麻布フェスタ事業業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	平成 27 年 7 月 14 日（火曜日）午後 1 時 00 分～午後 3 時 00 分
開催場所	麻布区民協働スペース 1・2
委 員	（出席者）青木康平委員長、大滝裕之副委員長、山本隆司委員、 松井義人委員、木下典子委員
事 務 局	麻布地区総合支所管理課管理係 田代係長、新井主事、松岡主事
会議次第	1 開会 2 第二次審査 3 事業候補者の決定について 4 閉会
配布資料	・資料 1 麻布フェスタ事業業務委託事業候補者選考採点表（第二次審査）
会議の結果及び主要な発言	
事務局	1 開会 （本日の流れを説明）
事務局	2 第二次審査 （1）事前説明 （資料について説明）
委員長	（2）事業者番号 1 によるプレゼンテーション及び質疑応答 町会・自治会との連携というのがひとつの切り口としてあり、麻布地区については、外国人が多いといった地域特性もある。提案書における各種イベント実施に向けた内容において、記載が同一と思われる。各テーマに基づき、外国人であればこういう切り口で対応するとか、あるテーマなら町会・自治会との連携が弱いので、こう対応するとか違ってくるはずである。それぞれのテーマに関してもう少し説明がほしい。
事業者番号 1	町会・自治会のイベントとの連携のような部分について、具体的なアプローチまで至っていなかったのが現状。今後は、町会・自治会の関係者に実際会うことで、こういうイベントが実施できるとか、検討したいと考えている。

委員長	ハロウィンの提案については、臨場感があり、評価している。切り口として、そういう考えを持っているのであれば、街のイベントと一緒に実施することで、外国人も取り込めるので、自然に増えていく。どうしても従来の形式の実施スタイルでは、イベントを知る参加者については、また参加したいと思うが、新たな参加者は定員の関係等で参加できない。そういう状況に対応するため、参加が増えた部分については、今年は新たな内容を検討して、事業拡大につなげていけば良いのではないかと。
事業者番号 1	過去にふれあい祭りや南山小学校で実施しているイベントに参加した際、アーティストによる缶バッチのブースを出したが、それは枠組みだけこちらで用意して、あとは参加者が自由に行うことで、参加者同士がクリエイティブになるような効果が生まれた。
委員長	そういう効果が生まれることは、非常に重要である。また、事業の実施に関して、委託だから全てお願いするということではなく、街のつながりみたいなものは行政の方が持っている。そこはお互いに協力し、実施していけばよい。お互いの持ち味を生かしながらいければ、もっと拡大できる要素を秘めている。
B委員	独自提案のところだが、麻布フェスタは地域団体間のハブ的存在として、新しい交流の場を作るとのことだが、商店街や町会のイベントやワークショップで関わった人々や、活動に興味がある者同士で行う、ワールドカフェ形式の話し合いの場がどう結びつくのか。新しい交流の場というのは、どういう場所でどのように作っていくのかについて伺いたい。
事業者番号 1	従来の実施内容では、閉じた空間においての限られた定員だったため、飛び込みの参加が可能な移動式屋台であるとか、長時間の開催だとか開いた空間へ変えていきたい。ロゴマークがあるグッズだとか、ノベルティグッズを作成して麻布フェスタの存在を周知するような展開を考えている。
B委員	麻布地区内の美術館などの文化・芸術的資源や歴史的資源を活用したイベント等にかかる提案についてだが、ここでは、ショートフィルムによる麻布写真道場とあるが、どういう媒体によるものか。
事業者番号 1	ここでは、写真家による撮りためた静止画をパソコンに取り込み、3分や5分という長さで、音楽を加えることで、一つのショートフィルムとしての作品になる。また、即興での音楽演奏と合わせることも可能。昨年の例でいえば、蟬の羽化の様子をカメラで連写撮影したり、子ども達の表情であるとか、親御さんの驚いている表情だとか、会場で参加者に流すことで一種のアート作品にもなり、一緒に観賞することで、コミュニケーション

	が生まれたりするので、非常に意義のあるイベントだったと感じている。
E委員	提案の中で、外国人向けの周知については、触れているが、多様な世代という観点からとすると小さい世代は除くとしても、高齢者世代などに対する具体的な周知方法はどうか考えているのか。
事業者番号1	イベントの周知は主に区報からと考えている。親子だけではなく、ひとり世帯の高齢者でも参加できるように地域の区有施設に麻布フェスタ事業に関する新聞を置くことで周知を図るつもりである。
E委員	サポーターについてだが、現在10名ほどということだが、年齢の構成は。
事業者番号1	30代から60代まで幅広い年齢層がいる。
C委員	麻布フェスタのPR、周知方法にかかる提案の中で、地域の幼稚園、学校、図書館、いきいきプラザに出向き、人間関係を作りとあるが、御社の今まで培ってきた人間関係とは別に、新たに人間関係を築いていく部分で今までと違う部分を伺いたい。特に基本方針にもあるようにハブ的な役割を担うという部分について、外国人に対してもどういった働きかけをしていくのか。
事業者番号1	港区国際交流協会に対して、通訳という部分ではなく、関係のある外国人に対しても周知を図っていく予定である。
C委員	独自提案におけるワールドカフェ形式の話し合いについてだが、スケジュール上では、打ち合わせが2回、実施が1回のみになっているが、実施は1回ということなのか。
事業者番号1	他のイベントの実施状況に合わせて、イベントに関わった人々との繋がりを早期に持たせ、発展させるのであれば、打ち合わせと実施について開催時期を調整したい。
D委員	提案の中で、ハロウィンとか書道や枯山水とか、日本人だけでなく、外国人も興味を湧くようなイベントが想定されているので、多様な人々が関わり、町会や自治会と連携することで麻布フェスタをより良いものにできるのではないかと。そうした観点を見据えたテーマというものはあるのか。
事業者番号1	日常を少しだけ超えた非日常を目指したいと考えている。単なるアートでは、共感が得られないため、普段の暮らしの中に少し視点を変えることで、みんなが一緒に楽しめるようなイベントを提案したいと考えている。

D委員	ハロウィンの提案内容では、衣装だけでなく、化粧もするのか。
事業者番号1	化粧はしない。イベント開催時に協力をお願いするアーティストはファッションデザイナーである。普段、仕事上で使用する布とかを生地メーカーから提供してもらい、イベント時にミシンを持ち込み裁縫して、衣装として参加者が身にまとうことで、大人だけでなく、子どもが喜ぶような楽しめるイベントになる。外国人の参加に対しても通訳が対応する。
D委員	一般的なハロウィンでは、凝った特殊メイクであるとか想定されるが、メイクはしないのか。
事業者番号1	ハロウィンのイベントでは、メイクはしない。メイクについては、時間がかかるのと生地メーカーの普段目にしないような生地だけで、十分楽しめる要素があるし、そこが非日常の体験であるため、重要と捉えている。アートというような形で飛躍し、刺激してしまうと参加者との隔たりができてしまう。アートとは何かといった観点では、驚くこと、人との出会いがあることで、参加者の発想を豊かにし、サポーターにも良い影響があると考えている。
D委員	御社の今までの経験の中で、こうした方が良いとか気づいた点とかあるのか。
事業者番号1	勘の問題もあるが、限られた時間の中でどこまで内容の濃いものが実施できるかを念頭に置いている。
	(3) 事業者番号2によるプレゼンテーション及び質疑応答
委員長	麻布フェスタということで、御社が考える麻布地区というのはどういう地区か。
事業者番号2	外国籍の方々が多く住んでおり、古くからの地名が残るエリアであると認識している。
委員長	地域性についてはどうか。
事業者番号2	地域性については、大使館が多く存在するので、外交官が多いというのが地域特性だと考えている。

委員長	<p>確認した意図としては、基本方針に対して、麻布地区の活性化につながる企画をという記述があるが麻布地区という言葉しかない。麻布地区というのは、こういうものだから、こういう麻布フェスタを考えているという記載がない。例えば、赤坂地区の活性化につながるとか芝地区とか同様のことが言えるのではないか。外国人と言っていたが、それであれば麻布地区においては、外国人が非常に多いので、地域性なり、文化を築いているという視点になり、こういう麻布フェスタが考えられるという提案になれば、麻布地区というものを理解している提案になる。また、その認識に基づく方針を立てて、具体的には、御社が提案する各種のイベントへとつながってくる。ただ、今回については、どこの地区でも当てはまる表現であるため、不足感が否めない。</p>
委員長	<p>日本の伝統的な文化を素材としたイベントについて、外国人に限定しているのはなぜか。</p>
事業者番号2	<p>外国人を限定としている訳ではない。本質的に外国人の方々にも日本文化の良いところを知ってほしいという趣旨で企画した。</p>
委員長	<p>外国人だけでなく、日本人にとっても日本文化というのは、重要な視点である。普段接する機会のない人々との交流があると良い。この提案では、外国人という地域性が全面に出すぎてしまっている。実際に行うときには、そうした日本人も対象とした視点を踏まえる必要がある。また、商店街振興組合との協働による連携イベントで参加商店街の名前が実際記載されているが、自然と環境、季節の催しなどを活用したイベント等でハロウインのイベントを提案しており、強制的に開催日が決定しているが、これは街からすると受け入れられない内容である。提案を見る限り、市場調査なり、町会で実施しているイベントをどれだけ調査したのかが見えない。その部分についての御社の取り組みについて伺いたい。</p>
事業者番号2	<p>提案に際しては、インターネットによる調査が主であり、実際には有栖川宮記念公園で実施していたイベントに参加したり、商店会に関しても想定にある各商店会にも顔を出したりしたが、具体的に過去にどのような内容を商店会が実施していたかどうかの調査までは出来ていない。</p>
委員長	<p>実際に商店会ではどの辺のイベントに行ったのか。</p>
事業者番号2	<p>イベントへの参加はしていない。事業所として、日本赤十字医療センターや六本木エリアに近いため、外苑西通り辺りでイベントが企画できるか等、シミュレーションは試みたことがある。</p>

B委員	麻布フェスタのPR、周知方法についてだが、新聞折り込みチラシとあるが、想定では10万枚程度になると思われる。全体スケジュールの提案では、関係各所用が1,000枚、麻布エリアに対するポスティングが4,000枚とある。どういう範囲を想定しているのか。
事業者番号2	麻布エリアに指定をかけて、そこで割り出した数字が4,000戸となったので、それに基づいている。
B委員	4,000戸というのは、どういう形式の想定なのか。
事業者番号2	戸建や住宅地と中心としたところを想定している。
B委員	配布枚数としては、足りないのではないかと。あと、新聞折り込みチラシは全体スケジュールに記載がないが、これは実施するのかもしれないのか。
事業者番号2	実施する予定である。
B委員	これは、一般紙面を想定しているのか。例えば、各種一般紙の新聞折り込みとして区内全域に配布する想定か。
事業者番号2	その部分については、今回の提案が概要版になっており、紙面及び媒体等の詳細については、契約が決定した後に実施計画において決めていく予定である。
B委員	経費的に影響がかなり大きいと思うが。
E委員	独自提案の中で、エコでつながる国際交流の輪ということだが、なぜ麻布地区で実施するのか、なぜ今エコがテーマなのか。地域事業の中の独自事業として、どういう効果が見込めるのか確認したい。
事業者番号2	エコライフに関する区のイベントとして、伝えられると良いという部分がある。独自提案に関しては、エコをテーマとした活動について、麻布地区が中心になって、情報発信をしていき、気づきを与えるイベントとして提案している。
E委員	麻布地区の地域特性を踏まえるということではなく、エコライフというイベントを麻布地区で実施したいということか。環境のこととか、他の地域と較べて麻布地区がどう違うとかということではなく、まずイベントありきで、そのイベントを始めに麻布地区で実施することが目的なのか。

事業者番号2	麻布地区として、エコライフへの活動を意識することが主軸としており、地域特性という部分は踏まえていないが、エコライフを推奨していくというのが位置づけである。
E委員	提案について、全体的に言えることとして、各イベントの参加人数が少ないのではないかと。特定の参加者によって、その後はどうやって地域の多様な世代や交流に広げていくのか伺いたい。
事業者番号2	参加者に気づきを与えたいという思いがある。フェイスブックなどの双方向のサイトを利用して、どこで何をやったかを発信することによって区の事業内容を伝えていく。伝えることで通年のイベントになっていけば良いと考えている。また、イベントの実施に際しては、事務局として支援させていただく。
D委員	日本の伝統的な文化を素材としたイベント等について、外国人だけを参加対象としている訳ではないと。麻布地区内の美術館などの文化・芸術的資源や歴史的資源の活用したイベント等に対する提案では、英語で伝える日本の昔話、朗読コンテストとあるが、このイベントの講師は外国人か。
事業者番号2	日本人が英語で朗読する。
D委員	エコライフ以外の他のイベントに対する外国人との連携や国際交流みたいなものはどういう形で考えているのか。
事業者番号2	自然や環境、季節の催しなどを活用し、イベント等におけるハロウィンイベントとして、かぼちゃランタンを提案している。一般的に仮装は浸透しているが、かぼちゃランタンについては、認知度が低いので、そういった部分を切り口として、異文化を知る機会を創出したいと考えている。
D委員	かぼちゃランタンのようなイベントは面白いと思う反面、日本人は食べ物を粗末にしてはいけないという視点もあると思うがそこはどうか。
事業者番号2	かぼちゃランタンに使用するかぼちゃは食用ではない。ただし、種に関しては食用になる。そういったことを知識として伝えていきたい。
D委員	提案にかかるポスティングや新聞折り込みチラシについては、見積もりとか予算の範囲内であるとか確認は取っていないという認識でよいか。
事業者番号2	そのとおりである。

D委員	商店街振興組合との協働による連携イベントにおける商店街スタンプラリーという提案についてだが、参加商店街に予定として記載されている商店会が参加し、参加者が来てくれるという見込みや勝算はあつての提案なのか。
事業者番号2	大田区の事業でイベントの実施経験があり、実績から判断するところでは問題ないと見ている。ただ、ある程度条件を付けて募集をかけた上で、参加者を増やしたいと考えている。
C委員	麻布地区内の美術館などの文化・芸術的資源や歴史的資源の活用したイベント等に対する提案における、英語で伝える日本の昔話、朗読コンテストで、小学生低学年を対象としている。日本人だけじゃなく外国人もいると思うが、横のつながりという部分で、交流という視点はないか。講師と参加者だけのつながりだけではなく、参加者同士がどういふ交流が持てるのかについての考えを伺いたい。
事業者番号2	イベント全体を通しての麻布フェスタというものを想定では、第一フェーズとして8月末から12月末まで何を行うかについて周知する。第二フェーズでは、より詳細な内容を周知することで、どれかのイベントに参加することで他のイベントの内容も知る機会になっていくのではないかと考えている。
C委員	同じイベントに同じ人間が参加することによって交流が生まれてくるという認識か。
D委員	独自提案にかかるエコでつながる国際交流の輪の提案についてだが、これは外国がエコに先進的だからなのか、単に外国人にごみ出しのマナーを知ってもらおうというような趣旨なのか。
事業者番号2	ごみ出しのマナーについて知ってもらおうという意図はない。エコライフという外国における文化や外国が先進的だという部分と日本のエコとの違いをイベントによる交流で啓発する狙いもある。
	3 事業候補者の決定について
委員長	事務局にて、第一次審査、第二次審査の採点結果を取りまとめたが、その結果は、事業者番号1が合計1,061点、事業者番号2が合計797点となった。各委員から講評をいただきたい。

C委員	事業者番号1については、イベント実施にかかる経験と実績があるので、今後もアイデアという部分では期待ができる。事業者番号2については、地域コミュニティの活性化という側面では、非常に弱いと感じた。
B委員	事業者番号1の提案内容については、具体的かつ明確な提案になっていた。サポーター育成の考え方についても評価できるので、今後の事業展開に拡がりを感じた。事業者番号2については、全体的に調査不足の提案内容になっていた。新聞折り込みの積算についても不明確な部分があった。また、サポーターの育成についても具体的な提案はなかった。
D委員	事業者番号1については、全体的に安定感がある。既存の内容を繰り返すだけでなく、新たな取り組みについて、チャレンジする気持ちが全面に出ている。また、麻布地区の地域特性を理解しており、どうやってイベントを実施していくかの方向で提案をまとめていたかと思う。事業者番号2については、準備不足であると感じた。事業にかかる予算についても想定して提案しているのか、地域との協力体制についても目途が立っているかどうかとも疑問に思った。
E委員	事業者番号1については、サポーターの拡充が課題ではあるが、以前からの経験を踏まえて、さらに拡大することのできる可能性が感じられた。事業者番号2については、麻布地区の地域特性や課題についてのリサーチが弱い。麻布フェスタの事業目的に沿った効果が得られるかどうかは疑問である。
委員長	事業者番号1は、従前の事業実施について、閉じた空間で実施していたと認識していた。そこから変えていこうという意気込みが感じられた。派手さはないが、じっくり取り組む印象があり、参加者との個別のつながりを重視している。事業をバージョンアップするための土台が出来ているので、安心感がある。事業者番号2については、地域性や動向等の調査・分析がされていない。また、麻布地区の地域特性を知った上での方針が定まっていないため、結果として、イベントの実現性が乏しいと感じられた。
委員長	これまでの委員の講評及び採点結果の内容を踏まえ、本業務委託の事業候補者は、事業者番号1とすることではどうか。
全委員	異議なし。
委員長	それでは、事業者番号1を本業務委託の事業候補者と決定する。
	4 閉会

